琉球大学学術リポジトリ

主題についての考えを深める道徳の時間の工夫：いじめに関連した単元構想と資料開発を通して

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2018-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桑江, 和子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41587

主題についての考えを深める道徳の時間の工夫

―いじめに関連した単元構想と資料開発を通して―

桑江　和子

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻・那覇市立城北小学校

1．問題関心

平成30年小学校で，平成31年には中学校で「特別な教科道徳」が新たに位置づけられる。道徳の教科化の背景には，2011年10月に滋賀県大津市で起こった中学2年生のいじめによる自殺事件をきっかけとした「いじめ防止対策推進法」がある。1984年の東京都の当時中学2年生であった鹿川裕史君の自殺からいじめが問題視されはじめて33年がたち，教科化による学校現場での実施となる。道徳の授業が人間尊重について考え，議論する場として大切な役割を担うことになった。

これまでの道徳の時間について道徳教育実施状況調査（平成24年5月～6月）によると，道徳の時間の授業時数（標準35時間）は，全国平均で小学校35．7単位時間とされている。しかし，現場での道徳の時間の内実を振り返ってみると，心情を理解することで終わってしまったり，単に体験活動に振替えたり，当たり前なことが書かれているだけの教材を読んで思考停止になっていたり，など十分ではなかったと考える。教科化となり，道徳の授業をこれまで以上に充実させていく必要がある。

これまでにも道徳の時間では，いじめに関することが数多く実践されてきている。しかし，文科省によると「分かりきったことを言わせたり書かせたりする指導に終始しがちで，現実のいじめの問題に対応できていなかった」とし，「あなたならどうするか」を真正面から問い，「考え議論する道徳」への改善を図ることを求めている。また，これからの道徳教育について，松下（2011）は生活の中から共通意識としてつくられていく「共同体道徳」を土台にした市場の利益につながる「市場モラル」を位置付けることによって，社会に参画する市民を育てるための道徳教育へつなげる必要があり，そこでの学びには，「呼びかけ応えること」ケアリング（ノディングス1997）が前提となるとしている。

これらを受けて，いじめを考える道徳教育の要としてこれからの道徳の授業には，児童が自ら考え，判断し，他者と関わり，よりよい存在になろうとし，よりよい集団を築くことができるように構想していくことが求められる。また，「社会に参画し，問題を自分ごととしてとらえていく市民の教育」を見据えて展開することが課題となってくる。

また，いじめは，どこにでも起こりうる，なくなることがない深刻な問題である。いじめについて，松下は（2015），「キャラ化」（土井 2009）する若者について次のように説明している。「他者危害原則」（JS・ミル）の他者に与える危害の回避が心理主義と結びつくと，「他人の気分を害しないこと」を求められることが「道徳的」となり，人間関係に緊張が絶えず求められ，疲弊してしまうために傍からみて分かり易い「キャラ」を装ってしまう。また，大河内清輝さんのいじめ自殺について「奴隷道徳」（自分の考えを表明することをためらい，問題や矛盾を一人で抱え込んでしまう）での心情と似通っているとしている。さらに，他者との関係が切れている状態の若者を宮台（1997）は，「仲間以外はみな風景」として言い表している。このようなことから，いじめの背景にもみられるこれまでの道徳教育の不十分さを踏まえ，いじめに対応する道徳の時間の改善が望まれる。いじめに関しての道徳の時間では，考え，問い直し，違う意見に出合い吟味をすることを通して「凡庸の悪」（ハンナ・アーレント）の思考停止状態に陥らないように，さらに相手がいやな思いをするであろう行為は選好しないと自分で価値づけする

ことに至れる学びが求められている。

２．目的（明らかにしたいこと）

本研究では，いじめについて考え学ぶための単元「ともに生きる」の編成・教材の開発・実施を通して，児童の反応や振り返りをもとに，いじめを考える際の手立てとしての単元や教材の効果を検討する。

３．いじめに関連する価値内容における先行研究と本研究で取り上げる価値内容について

（１）指導要領におけるいじめに関連すると思われる価値内容と先行研究について

道徳の価値内容は，低学年 19 項目，中学年 20 項目，高学年 22 項目である。この中で，いじめに関連すると思われる価値内容は，田中（2017）らによる「いじめにおける道徳の内容項目の優先意識調査」を参考にすると低学年・中学年では（A⑤善悪の判断・勇気，A②正直誠実・明朗，B⑥親切，B⑦感謝，B⑨友情，C⑭⑮よりよい学校生活，D⑱生命尊重）である。高学年では，低学年・中学年の価値内容に（B⑪謙虚・寛容，C⑬公正公平・正義）が加わる。

（２）本研究で取り上げる価値内容について

対象学年は，高学年（6 年）である。

単元「共に生きる」では，障がい者や弱い立場とされる人の生き方や現状を提示しながら，関連価値内容（感謝，公平，親切，生命尊重，寛容）を取り上げる。

単元は次の５つの視点から構成する。①人は，社会的存在で生まれたときから人に支えられている②人は，基本的人権をもち尊重されなければならない。③人に対しては，思いやりの気持ちを大切にしたい。④いのちは，大切なものである。⑤支えあっていけるクラスでありたい。である。

①については，2015 年の取手市立中学校 3 年生のいじめによる自殺事件から，「嘲笑・悪口・しかと」を受けながらも加害者グループに服従し，「友達家畜」（内藤）のような状況の中で「ぼっちはいやだ」と中島さんが日記に書き残しているように，学校生活の中での居場所の重要性がわかる。人は，生まれた時から，人と関係を持ち，周りの人に支えられながら生きている。普段当たり前になっている「人として支えられている」ことについて，改めて考えさせたい。②については人間尊重について「差別・偏見」を通して考える場を持ちたい。大菅（2015）の「いじめ問題」についての実践記録によると「すべての人間が，差別の構造が生きていることを自覚し・・・差別する側に身を置いていないかを意識し，考えながら生活しなければならない」とまとめているように，偏見・差別の学習がいじめを考えるうえでは，必要である。③については，大菅（2015）の「いじめ問題」についての実践記録によると「自分も周りの人に支えてもらい。自分も周りの人を支えていく。それが，分かって初めて，人間はやさしくなれるのではないか」「やさしさとは，人のことを考えること」「いろいろな考え方をする人がいることを理解し，それらの人と共に生きることの必要性，重要性を理解すること」と述べている。人は，支え支えられること（ケアリング）を通して，相手意識が生まれ，相手のことを考えるやさしさにつなげていけるのである。④については，いじめによって死に至る事件がなくならないことからも命の尊さについての学習は外せない。⑤については，相互理解が相手を尊重することにつながり，いじめのない温かな関係が育まれていくと考える。

４．単元における児童の意識の流れについて

また，単元を進めるにあたって先の５つの視点に沿った児童の意識の流れを仮定した。①「どんな人も，親や周りの支えによって生活しているんだな。」→②「一人ひとりのいのちはどれも大切にされているのだろうか？」→③「支えてあげられることっていいものだな。」→④「生きていくための心の支えってなんだろう？」→⑤「安心して生活するためのクラスには，どんな心の支えが必要だろう。」である。

5 つの意識の流れを仮定し，実際に授業を進めるとしてまず，①の視点から「無償の愛」を知り，どんな人も，親や周りの支えによって生活しているということを前提に単元学習を始める。次に，②の視点「カースト制」や「人類館事件」の状況など問題提起し，基本的人権侵害に対する怒りや不条理さに触れさせる。③の視点から「やさしいなみだ」の実話から，障がい者を助けるお母さんの行動を取り上げ，やさしさについて話し合わせる。④の視点から親子が支え合って，生きていくことができることを「一粒の豆」の実話から考えさせる。⑤の視点から「クラスメイト」という実話から，いじめについて話し合い，安心して過ごせる学級とそうでない学級の違いを考えさせる。

５．単元計画について

このように，主題とする「いじめのない，だれでも安心できる学級を支えるものはなにか？」という問いに対して意識の流れを関連づけながら，いじめを考える場を設定する。そして「安心できる集団に必要なこと」に対して自分なりに答えていける児童を育成していく。

（１）単元計画

時	主題	価値内容		考える内容	資料
1	支えられて	B⑧ 感謝	日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それにこたえようとする心情を育てる。	人は，周りに支えてもらいながら生活している。感謝の気持ちをもって生活したい。	・井上美由紀 ・浅井力也 ・四川省地震新聞記事
2	差別や偏見ってなんだろう	C⑬ 公正公平・正義	だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正，公平にし，正義の実現に努める。	カースト制度の階級制の不条理について知り，琉球人の差別から，差別とは，何か，偏見とは何か考える。	・インドのプーランの少女期の映像。 ・人類館事件の新聞記事
3	思いやりや優しさって何だろう	B⑦ 親切	誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にする。	優しさとは，気づき，行動すること。相手の身になってあげること。について考える。	・「やさしいなみだ」
4	生きることを支えているものはなんだろう	D⑲ 生命尊重	生命がかけがえのないものであることを知り，自他の生命を尊重する。	母親が自殺をとどまれたのは，なぜか考える。 生きるためには，周りとのつながりが大切であることを考える。	・「一粒の豆」
5	いじめのない公正な学級を支えているものは何だろう	B⑪謙虚・寛容 関連価値 B⑧感謝C⑬公正公平・正義B⑦親切D⑲生命尊重	謙虚な心をもち，広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。	安心できる学級（居場所があるということ）であり続けるためには，どんなことが必要なのか考える。	・クラスメート

６．中城南小学校での実践

（１）日時　平成 29 年 9 月 25 日～10 月 6 日

（２）対象　中城村立中城南小学校　6 年 1 組　35 名　6 年 2 組　36 名

（３）実施内容　6 年 1 組　「クラスメイト」1 時間　6 年 2 組　単元「共に生きる」5 時間

（４）結果

本研究では，事前・事後アンケートと授業後の感想と授業中の発話から，単元構成や授業内容や資料の効果について検討する。

① 単元構成について

表 1　6 年 2 組での授業発話

T. この状況はいじめですか?いじめではないですか?　考えて　いじめである　ないを書いてください。理由を書いて，なぜ，いじめと思ったのか，いじめではないと思ったのか？
T. これはいじめだと思った人は，立ってください。
全員起立する
T. 6 年 2 組は，これをいじめだと捉えるんですね。

6 年 2 組の単元の 5 時間目では，表 1 のように「クラスメイト」での状況を全員がいじめととらえた。しかし，6 年 1 組では，同じ質問に対して，「いじめか差別かわからない」となり，話し合

いの合意が得られなかったため，「差別・偏見」の学習が必要なことを確認し，後日４時目「偏見」を学習した。やはり，いじめを考えるうえでは，「差別・偏見」の学習は必要であることがわかった。

また、単元の中の５時間目（クラスメート）だけを学習した１組と単元５時間すべてを行った２組の５時間目の授業のみの感想とアンケートをテキストマイニングして比較した。両クラスに共通したテキストは，いじめ，差別，ひどい，一人ぼっちである。１組によくでてくるテキストは，いじめである。２組によくでてくるテキストは，思いやり，見た目，判断である。２組は，いじめと捉えた上で「思いやり」「偏見」の学習を活用しながら，思いやりをもって，人を見かけでは判断してはならいという深い考えにつながったと考察する。また，「思いやり」「差別・偏見」「寛容」は，いじめを考える際は，有効な価値内容であると考察する。

② 授業について

授業意欲についての質問では，「よく考えた　考えたほうだ　あまり考えなかった　考えなかった」おいて両クラスとも全員が「よく考えた　考えた方だ」と回答している。

また、両クラスとも「先生にいじめだよと言う勇気がでてきた。」「やっちゃいけないよって言えなくても陰で支えたい」「世の中甘くはなくて・・・でも支えてあげたい」「いじめは、どこにでもあるけど、優しさや思いやりがあると少なくなっていくと思う」などとして自分ごととしてとらえている感想がみられた。

授業の発話の結果から，「教師の発話が多いこと」がわかった。授業形態，発問のわかりやすさを改善する必要がある。

③ 資料について

児童の感想から「資料の読み取りになっている授業があること」がわかった。

７．次回の実践へ向けての改善点

（１）単元構成について

単元の内容を入れ替える。単元５時間のないようを「支えられて」「やさしさ」「偏見」「生命尊重」「寛容」の順番にする。1，２，３時は，人間関係での土台として必要なものとして，4，５時は，いじめの知識と実際の対応について考える時間として実施する。

（２）授業内容について

教師の発話を押さえ，ペア学習，グループでの話し合いを取り入れ，授業形態を工夫する。

（３）資料について

資料の読み取りになってしまった教材「一粒の豆」を「わたしのいもうと」に変えて，いじめが命を奪うということと「孤立化」「無力化」「透明化」「脳に及ぼす影響」などいじめについての知識についても学習に盛り込んでいく。

［文献］

松下良平（2011），『その道徳は，ホントに道徳的か？－「生きづらさ」の背景を探る』日本図書センター.

文部科学省（2017），『小学校学習指導要領解説　道徳編』東洋館出版社.

大菅新（2015），「実践記録（いじめ問題について）」第３１回暁烏敏賞入選論文.

田中健一　嶺井勇哉　占田孔一（2017），「いじめ問題に対応する小学校の道徳授業の構想と実践」―「善悪の判断，自律，自由と責任」と「公正，公平，社会正義」を通して―教育学論集 PP231－250．創価大学教育学部・教職大学院